令和４年度

学校評価アンケートのお知らせ

天童市立千布小学校
令和５年２月２１日
TEL　654-2307
FAX　654-2292

アンケートへのご協力ありがとうございました

日頃から，本校の教育活動にご理解とご協力を賜り，誠にありがとうございます。

さて，今年度千布小学校では，学校の教育目標である「心豊かに　ともに生き抜く子供」の育成に向けて，学校経営の重点に【自分たちでよりよい学校生活創っていく子供の育成】を掲げ，細分化した４つの重点のもと，具体的な１０項目を基盤に教育課程を編成して日々の教育活動に取り組んでまいりました。コロナウイルス感染症の影響は少なからずありましたが，様々な面で工夫を凝らし教育活動を展開してまいりました。

「未来につながるわくわく体験」では，ＩＣＴ機器をフル活用し，普段の授業でのタブレット使用や遠隔地との交流等を中心に，これまでの学びより更に深い学びを目指し，未来に生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成を推進してまいりました。また，「地域から学ぶ本物体験」では，千布小学校の強みである地域の力をお借りし，様々な出会いや体験を通して多様な価値にふれ，学んだことを地域や世界に発信して，つながる体験を積み重ねてまいりました。

ご協力いただきましたアンケートを分析・考察した結果，教育活動の質的向上に向けて改善すべき点やさらに努力すべき点が明らかになりました。この結果を真摯に受け止め，課題は具体的な対策を講じて改善を図ってまいります。

今後とも，この度のアンケートに限らず，学校へ忌憚のないご意見やご指導をいただきますよう願いますとともに，本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和４年度　学校経営の重点と具体策

◎未来につながるわくわく体験

経営の重点１　自律した学びにつながる学習に改善する

（１）校内研究「自ら学びに向かうことができる子供の育成」の日常化
（２）読書活動の拡大
（３）自律した学びにつながる生活科や総合的な学習の時間

経営の重点２　未来に生きる子供に必要な資質・能力を育成する

（１）ＩＣＴ活用の推進
（２）情報活用能力の育成

◎地域から学ぶ本物体験

経営の重点３　自治活動を通して生活を創る活動を改善する

（１）委員会活動による子供主体の活動の推進
（２）異学年交流の充実

経営の重点４　地域を支える人材をつくる工夫をする

（１）地域の人材や素材等、本物にふれる学習づくり
（２）姉妹校新宿区立四谷小との交流計画（第５０回）
（３）特別支援教育を通した自立活動の推進

学校生活のキーワード

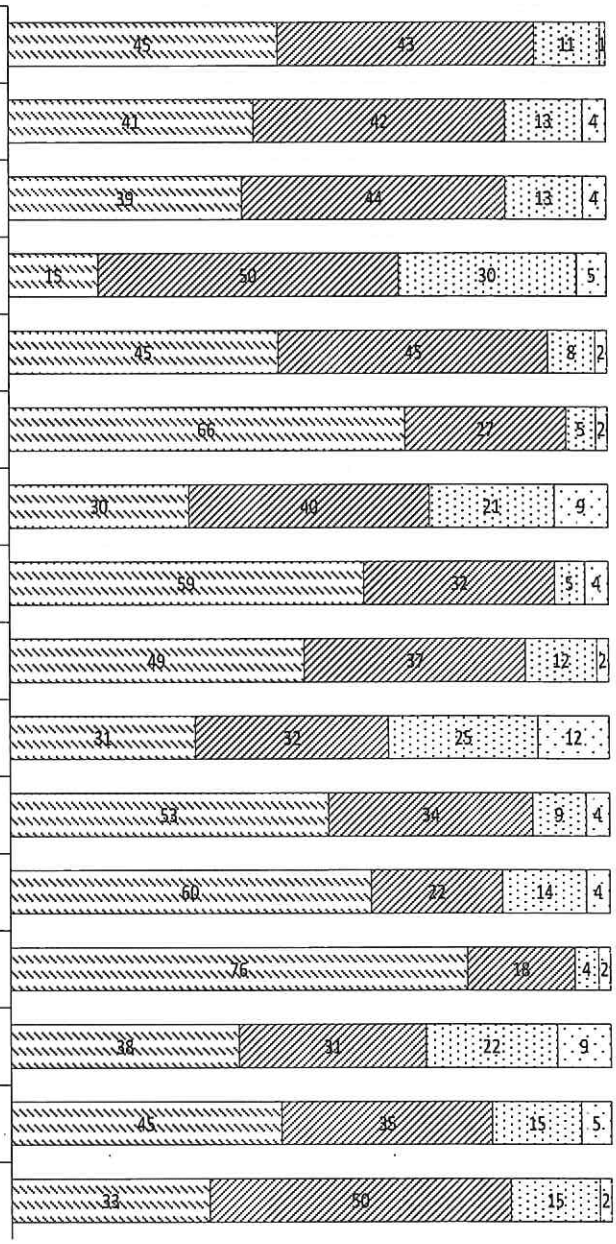
自分で考えて，動ける子供

令和４年度【児童用】学校生活アンケートの結果

児童数　１２２
回答数　１１１
回収率　９１％

◎よくあてはまる　○あてはまる　△あまりあてはまらない　▲あてはまらない

単位:%



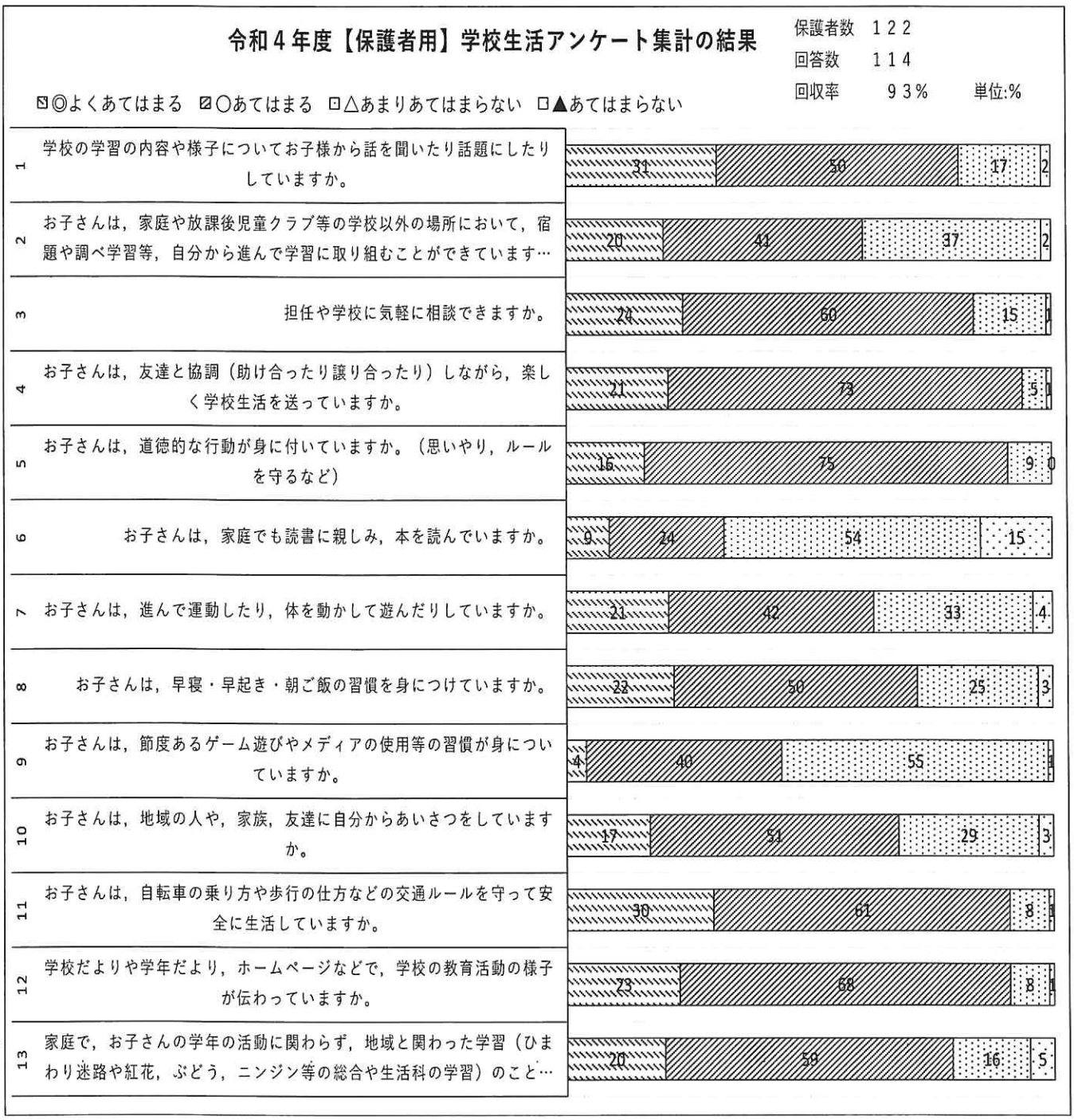
全１６項目のうち１２項目で，達成率（「よくあてはまる」と「あてはまる」の合計）８０％以上となりました。特に，「５.児童会に関する項目」「６.助け合い，譲り合いに関する項目」「８.読書に関する項目」「１３.ルールを守る項目」においては、９割以上の達成率となりました。また，「11.メディア使用に関する項目」も高い値を示しました。子供達がルールについて自分事として考える機会の創出等，今年度の学校生活キーワード「自分で考えて，動く子供」の育成を目指して実践してきた成果であると認識しております。

「４.自分の気持ちを伝える項目」や「７.道徳に関わる項目」，「10.生活習慣に関する項目」については，やや達成率が低くなりました。子供達１人１人と向き合い，教師自ら子供達と関わる機会をこれまで以上に意識して取り組みたいと思います。

令和４年度【保護者用】学校生活アンケート集計の結果

保護者数　１２２
回答数　１１４
回収率　９３％　単位:%

◎よくあてはまる　○あてはまる　△あまりあてはまらない　▲あてはまらない



全１３項目のうち，達成率（「よくあてはまる」と「あてはまる」の合計）８０％以上が６項目で，昨年度とほぼ同等の結果となりました。「４．助け合い，譲り合いに関する項目」「５.道徳的な行動に関する項目」「11.ルールを守る項目」「12.教育活動の情報提供の項目」において，９割を超える高い値となりました。今後も，子供達の良い面を保護者皆様や地域の方と共有しながら教育活動を推進していきたいと考えます。また，「８．生活習慣に関する項目」や「13.地域に関わることを話題にする項目」において達成率はやや低いものの，昨年度より達成率が上昇しました。地域と関わる学習において，発信を意識した取組みの実践の成果と考えております。

「９.メディア使用に関する項目」では，子供達の意識とやや乖離がみられました。今後も，よりよいメディアとの関わり方について，子供達を中心に据え，学校と保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思います。

全体的な考察

学校経営の重点【自分たちでよりよい学校生活を創っていく子供の育成】

◎未来につながるわくわく体験

経営の重点１　自律した学びにつながる学習に改善する

自律した学びにつながる学習を推進するには，課題を解決するためにどのような道筋で学習を進めるかといった見通しを持つことが大切です。そのために，課題や学習内容を整理する思考ツールの活用のあり方と課題について調べたことや自分の考えを友達等に発信するＩＣＴ機器の効果的な活用方法について研究を積み重ねてきました。また，学力テストの結果を踏まえてつけたい力を明確にする話し合いを行い，職員間で共通理解を図り，授業に生かす取組みを行いました。課題解決のために友達と意見交流して新たな発見をしたり，学んだことを発信して他者から価値づけされたりすることで，学習の次のステップに繋がる意欲的な姿がみられました。また，学習課題に関する児童のアンケートにおいて，ほとんどの児童が自ら学習に進んで取り組んでいるという結果となりました。家庭では、学校での学習内容や様子について話題にする等，協力的な姿勢が保護者アンケートの結果から伺えました。今後も，学校や家庭が連携し，学校生活全般を通して自律的な学びの姿がみられるような取組みをＩＣＴ機器の活用を中心に据えて進めていきたいと思います。

経営の重点２　未来に生きる子供に必要な資質・能力を育成する

ＩＣＴ機器の活用能力を身に付けることは，未来を生きる子供達にとって必要不可欠な資質の１つと考えます。本校では，コロナ禍に対応したリモートによる授業配信は既に日常化しております。遠隔地とのリモート交流も盛んに行われ，以前から交流のある新宿区立四谷小の他に，徳島県の高志小，石巻市の大谷地小と総合の時間等で学習した内容を伝え合い，交流を深めました。新しいアプリを使った資料作成やこれまで使用してきたロイロノートの活用等，「普段使い」を目標に着実に進めてまいりました。

また，児童委員会の取組み後に，子供達自らグーグルフォームを活用してアンケートを作成して振り返りを行う活動も定着してきました。今後は振り返りのデータをどのように分析して次の活動に生かすか，といった課題に取り組んでまいります。日常の健康観察や宿題の配信，台風等による臨時休校時の児童への課題配信や連絡もタブレットを活用して行いました。このように家庭での宿題等でタブレットを使用する機会が増え，ルールを守りながらメディアと上手に関わっていこうとする子供達たちの意識が感じられました。しかし，保護者の方々の子供達の過剰な使用を心配する意識が保護者アンケートやメディアコントロールデーの取組みから伺えました。保護者の方々への周知を含め，今後こうした子供達との意識の乖離を埋めるような取組みを検討してまいります。

◎地域から学ぶ本物体験

経営の重点３　自治活動を通して生活を創る活動を改善する

学校生活のキーワード「自分で考えて，動ける子供」の姿を目指し，「学校生活をよくするため

の取組み」を子供達が主体的に行えるように支援してまいりました。児童会の委員会活動で，長距離走奨励週間やなわとび週間等の体力向上の取組み，読書旬間における読書の幅を広げる「読書ビンゴ」の取組み等，子供達の意見を中心に据えて活動を企画して実践しました。活動後に行う振り返りのアンケートも子供達が作成し，タブレット等を有効活用してデータを収集，分析，児童への発信も行いました。コロナ禍での運動会の実施についても，自分たちでアイディアを出し合って計画・実践，振り返りも子供達が中心となって行いました。また，学校生活のルールや全校生の困り事を解決するために，代表委員会で話し合い，みんなが納得するルール作りを行いました。「ブランコの乗り方の約束」や「いじめをなくすための取組み」「廊下を走る人をなくすための取組み」はその例です。

また，ＳＤＧｓについて全校生に知ってもらおうと，異学年で構成する縦割り班でゲーム等のコーナーを巡る企画をボランティア委員会が企画，実施をしました。児童アンケートの「自分たちで考えためあてに向かって活動を工夫している」の項目において昨年度と同等の結果として表れています。

経営の重点４　地域を支える人材をつくる工夫をする

地域を支える人材をつくるために，子供達が本物の体験をして地域の良さに気づき，「地域が好き。」と言える子供を育てることが大切です。子供達が地域の良さに気づくには，体験に加えて，他者からその地域の素晴らしさを認知してもらうことも大切であると考えました。そこで，今年度は学習したことを他者に発信することを意識し，自分たちが住んでいる地域について考える機会を創出することに取り組みました。生活科や社会科，理科等の学習において実際に地域を歩いて直接話を聞く体験や地域の宝にふれる機会を継承することに加え，外部への発信に努めました。学習発表会での保護者の方への発信をはじめ，各学年の様々な交流の取組みは前述した通りです。こうした活動に加え，６年生による地域特産の果物を使ったいろりカフェ開催，ひまわり迷路への顔はめパネル設置，紅花ひまわりロード作り等，地域の方々からご助言・ご協力を頂きながら地域の良さを発信しました。また，天童アートロードプロジェクトや丸七建設の皆様のご協力を得て，公民館改修のために設置された防護シートに巨大な壁画を全校生で製作し，新しい公民館と関わる機会を設けました。こうした取組みにより，保護者アンケートの結果におきまして「家庭で地域と関わった学習のことが話題になる」の項目の数値が高い数値となりました。

個別に支援が必要な児童への対応につきましては，校内特別支援委員会を窓口に進めてまいりました。特別支援学級では子供達の実態に応じた自立活動を計画・実施したり，困り感を感じている保護者の皆様とは必要に応じて面談を計画・実施したりと，保護者の方や子供達に寄り添うための取組みを進めてまいりました。

更に，全校生のいじめ等の悩み事を把握するため，これまで同様にいじめに関するアンケート調査や悩みや困り事を聞く子供達との個人面談をこれまで同様に実施してまいりました。昨年度よりいじめの認知件数は減少しておりますが，いじめ防止対策推進委員会では「アンケート以外で子供達が悩みを打ち明ける機会があまりないのではないか。」といったご指摘も頂戴しております。今後も子供ひとりひとりに目を向ける指導を継続してまいります。